

日本の拠点から、 世界の拠点へ。

Shinya Yamanaka



熊本大学は、“発生学研究のメッカ”といっても過言ではありません。70年もの長い間積み重ねられてきた研究は、現代の研究につながるしっかりとした土台を築いています。そこに、「KEYフォーラム」を熊本大学で開いた意義があるのではないのでしょうか。発生学研究の“拠点”だからこそ、今回のようにさまざまな分野の研究者を集めることができる。私自身、久々に面白い！と思えたフォーラムでしたね。こうした情報を共有できる場を設けていくことは、今後の研究の発展には欠かせないことですし、“拠点”を担っている熊本大学グローバルCOEの役割であると考えます。

山中伸弥
京都大学IPS細胞研究所 所長
熊本大学発生医学研究所 客員教授

9月8日、9日の両日、「KEYフォーラム～発生生物学と再生医療～」を開催。

“発生”というキーワードの下、京都大学の山中伸弥教授をはじめ、多くの著名な研究者にも参加していただきました。

“発生学研究”の最先端をゆく熊本大学で「KEYフォーラム」を開催することの意義をフォーラムの主催である熊本大学グローバルCOE拠点リーダー 糸昭苑教授と山中伸弥教授（発生医学研究所 客員教授）に尋ねました。



Shoehn Kume

今回の「KEYフォーラム」は、熊本大学グローバルCOE最終年度の集大成として開催しました。山中教授をはじめ、国内外からこの分野のトップレベルの研究者にたくさん参加していただいたことに感謝しています。今回は海外から来熊された研究者をアテンドする大学院生や、ポスターセッションで積極的に質問する学生など、若手が活躍している場面を多く見受けました。こうした貴重な経験ができたという点にも、今回のフォーラムを開催した意義を感じています。若手にいろいろな経験を積ませ、優秀な人材を育てることも“拠点”の重要な役割。これからも国際レベルに通用する人材の育成に、力を入れていきたいですね。

糸昭苑
熊本大学グローバルCOEプログラム
細胞系譜制御研究の国際的人材育成ユニット 拠点リーダー

